

—牧師室より—

大江健三郎氏がノーベル文学賞を受賞した。私が高校生頃、開高健氏と共に新進作家として登場した。大江文学は難解であるが、誠実で深く求道的であると思う。その大江氏は「文化勲章」の受章に対し「戦後民主主義者」だから国家と結びついた「章」は受けないと拒否した。以来、右翼からの嫌がらせと脅迫が続いているらしい。信州大学の北沢方邦氏は、大江氏の論理を通すならば、スウェーデン王立アカデミーが決定し、授賞式にスウェーデン国王が出席するノーベル文学賞も拒否すべきであろうと同じ賞を拒否したサルトルを引き合いに出して批判している。そして「戦後民主主義者」の幻想を白日の下にさらけ出したと手厳しい。

城山三郎氏が「紫綬褒章」を辞退した後、奥さんに「いいか、おれが死んだあと、役所が何か言ってくるけど、決してもらうなよ」と念を押した。すると奥さんから「死後のことまで指図するなんて、越権でしょ。そして、あなたの言

い分はもらった方に失礼じゃない」と反撃される。城山氏はあわてて「ち、ちがう、お、おれは、自分のことだけで言ってるんだ。おれには国家というものが、最後のところで信じられない。少年兵のとき、おれは……」と絶句し、「読者とおまえと子供たち、それこそおれの勲章だ。それ以上のもの、おれには要らんだ」と語ったという。

受章者は必ず「私を支えてくれた方々を代表して受けます」と丁重に言う。教会バザーの利益から僅かばかりを、障害児の授産施設「ひまわり作業所」に贈っている。作業所の創立十周年の記念会があり、私も招かれた。Oさんを見舞い出席できなかったが、後日、子供たちの作った七宝焼と筒に入った感謝状を持って来てくださった。感謝状には「長年にわたり、その功績を讃え」と書いてあった。主イエスは「右の手のすることを左の手に知らせてはならない」と教えているが、まさに「私を支えてくれた方々に代わって」いただいた。ご報告まで。

## 週 報

1994年11月27日 降誕前第4主日  
待降節(アドベント)に入る  
巻15 35号

### 1994年度教会主題

「十字架のキリストを証する」

聖句 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。  
だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

コリントの信徒への手紙一 6章20節

- 目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。  
2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話	045-833-5323
ファックス	045-833-6616
振 替	00290-4-13994

牧師 秋 吉 隆 雄